

学長プロジェクト 1

AI と会計



東洋大学総合情報学部教授

島田 裕次
SHIMADA Yuji

プロフィール

1979年東京ガス株式会社に入社し、IT部門、経理部、監査部等で勤務した後、2009年から現職。博士（工学）、CISA、CIA、システム監査技術者。著書は、『情報セキュリティの基本』日本実業出版社、『内部監査人の実務テキスト〔実務知識編〕』日科技連出版社（編著）ほか多数。

1 はじめに

AI（人工知能）という言葉が注目を集めており、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど様々なメディアを通じて報道されている。AIは、第1次ブーム（1950～60年代）、第2次ブーム（1980年代）を経て、現在は、第3次ブームを迎えており、技術の進展とともに実用段階を迎えている。人工知能には、深層学習等の機能があり、コンピュータの処理能力の大幅な向上によって、従来は時間がかかっていた処理が短い時間で処理できるようになったので、様々な分野での利用が可能になりつつあり、今後の利用が期待されている。

AIの導入は、自動運転を始めとして、医療、業務支援、金融、教育、マーケティング、環境、採用、テロ対策、軍事など多様な分野で行われている。また、会計に係るものとしては、会計情報システムでのAI導入や監査分野でのAI導入が挙げられる。それでは、AIの導入によって、会計にどのような影響を及ぼすのだろうか。本稿では、AIが会計に及ぼす影響につ

いて検討し、会計に携わる者に何が求められるのかを考えたい。

2 AIが会計に及ぼす影響

筆者は、企業で勤務していた時に、営業所経理課、本社経理部などの経理業務を経験する一方で、社員SE（システムエンジニア）として、決算システム、固定資産システム、資金管理システムなどの会計に係る情報システムに関わってきた。その間、会計情報システムは、伝票に勘定科目、部署、金額などを記入しコンピュータセンターに送付して、最終的に会計帳簿や財務諸表等を作成するというバッチ処理の時代からオンラインで処理をする時代へと進展した。

また、会計情報システムの単独利用から、販売情報システム、購買情報システム、給与システムなど様々な業務システムと会計情報システムがデータ連携して、会計処理の効率化が進むとともに、管理会計システムとのデータ連携が進んで会計業務の品質が向上してきた。さらに、会計事象の発生源あるいはそれに近いところでデータを収集して、会計情報システムにデータがつながるようになり、会計担当者の削減や決算処理の短縮へと進展してきた。

今後、AI導入が加わると、会計データの分析、活用が促進されて、より高度な分析をより速く実施することが可能になり、その結果を用いて経営戦略や各種施策につなげることが可能になる。不正や誤謬の疑いのある取引の早期発見が可能になり、問題になる前に改善することも可能になる。

さらに、最近では、RPA（Robotic Process Automation）と呼ばれるホワイトカラーの業務を効率化する

ためのツールが注目を集めており、導入が拡大しつつあるが、このような自動化の流れを受けてさらに会計担当者の業務効率化が進むことになる。

AI時代になると、今まで以上に仕訳の自動化が進み、財務分析も自動化され財務上の問題点を早期に発見し対応することができるようになるので、会計担当者の業務も大きく変化する。単純な伝票処理（会計処理）や、集計作業から解放されることになり、簿記の知識がそれほどなくても会計担当者の仕事ができるようになる。

3 AI時代の会計人材

ICT化の進展に伴って、簿記の知識があり、仕訳ができるというだけの会計人材の必要性は低くなっている。仕訳作業が情報システムで行われているからである。AI導入によって、自動仕訳の機能がさらに高度化することが想像される。また、AIの得意分野である経営分析の高度化がさらに進むと考えられる。つまり、単純作業や分析作業がAI導入によって無くなってしまうことが考えられる。

このような技術動向を勘案すると、「仕訳が分かる」、「仕訳ができる」というだけの会計人材では不十分であり、会計情報の活用能力がこれからの会計人材に求められていることが分かる。具体的には、次のような質問に答えられる会計人材が必要になる。

- ・ 経営者がどのような会計情報を求めているのか？
- ・ その会計情報は、どの業務システムから得ることができるのか？
- ・ 収集してきた会計情報をどのように分析すればよいのか？
- ・ 分析した結果を経営者にどのように分かりやすく説明すればよいのか？

こうした能力を育成するためには、経営に関する知識を身に付けるとともに、情報の流れを把握する能力、会計人材の場合には、会計情報がどのように生成されどこにつながっているのかを把握する能力が重要になる。

4 目的の把握能力が重要

会計情報を活用するためには、会計情報の活用目的を把握しなければならない。つまり、会計担当者は、経営者が求めている会計情報は、どのような目的で使うのかを的確に把握することが大切だということである。例えば、部門別の管理を詳細に行うための会計情報が必要であれば、どのような部門コード体系にすれば良いのかを考えられる能力が必要になる。また、売上データを詳細に分析したいと考えれば、売上に係る勘定科目をどのような体系にすればよいのか、あるいはどのように勘定科目を細分化するのか、補助科目が必要なのかを検討できる能力が求められる。

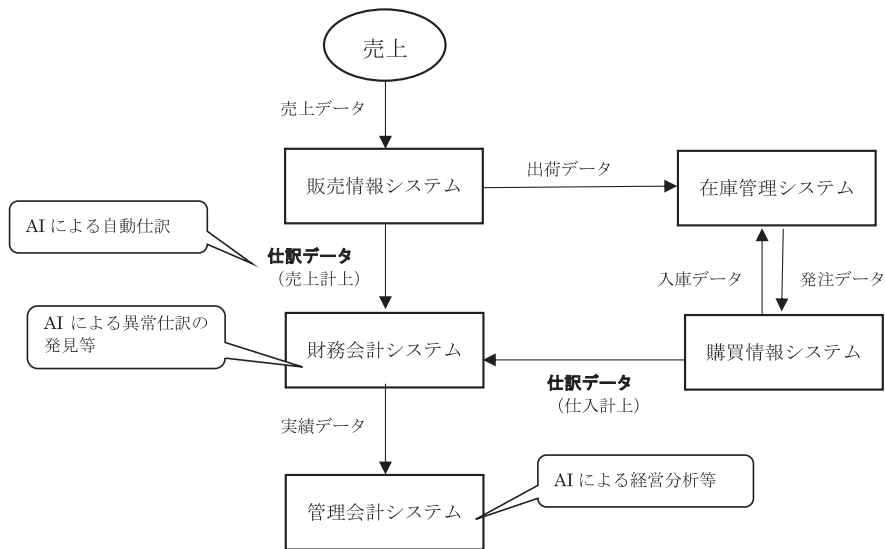
経営者が会計情報に関するイメージを十分に持っていないようであれば、経営者がどのような経営を目指しているのか、経営者や各部門の管理者などにインタビューして、あるべき会計情報の姿を作り上げるような能力も必要になる。つまり、インタビュー・スキルも大切であり、経営者に対して会計情報に関して分かりやすく説明するスキルも大事である。

5 プロセス思考、システム思考が必須

会計情報を使いこなせる会計人材になるためには、プロセス思考及びシステム思考が必要になる。プロセス思考とは、会計情報の発生から利活用、保存、そして最後の廃棄までのプロセスを考える能力である。

簿記の学習では、「取引→仕訳（仕訳帳）→転記→総勘定元帳→試算表→精算表→財務諸表」という簿記一巡の手続を学ぶ。しかし、AI時代の会計処理では、次頁に示す図のように、会計データ（仕訳データ：太字で表示）とそれに関連するデータが、業務システム間でどのように連携しているかをプロセスとして理解する能力が必要になる。

さらに、それぞれの業務システムでデータがどのように生成されているのかを理解できなければならない。そして、その際にAIがどのように活用されているか、AIで行われる「会計判断」はどのようにになっているのかを理解する能力が求められる。



6 会計教育の改革が必要

簿記の仕組みは、理論として学ぶ必要があるが、会計実務では、会計処理のプロセスを理解したり、会計情報を利活用したりする知識が重要であることを述べてきた。大学をはじめとする会計教育においても、AI時代への対応が必要になる。仕訳の学習に加えて、会計情報に係る業務システムにどのようなものがあるのか、それらはどのような機能をもっているのかを教える必要がある。AIがその中でどのように用いられているかを理解することも必要になる。会計人材には直接関係がないと考えられるかもしれない“ICTに関する知識”が必要である。そのために、会計情報システムや業務システムに関する基本的な知識に関する教育をカリキュラムに取り込む必要がある。

また、財務会計、管理会計、税務会計というように専門別に会計を教えるだけではなく、これらを“総合的に教える”ことも重要である。会計パッケージソフトの機能を見れば分かるが、会計情報システムに入力する際には、計上日、勘定科目（借方・貸方）、金額（借方・貸方）という財務会計に必要な情報に加えて、部門、プロジェクト番号、消費税区分、摘要など様々な付加情報が入力される。つまり、会計実務では、財務会計、管理会計、税務会計を別々に行うのではなく、同時に行われているということを学生に理解させる必要がある。

AIという視点からは、自動仕訳や経営分析などに“AIがどのように利用されているか”、どのようにして仕訳の判断が行われるのかをその仕組みについて学

生に理解させなければならない。例えば、摘要に記載されたキーワードから仕訳を行うという仕組みがあれば、キーワードの設定が重要なことを理解させ、キーワードの設定・変更・削除を誰がどのように行っているかを把握することの重要性を教える必要がある。

AI導入によって、どのような変化が起きるのか予測できないことも少なくない。AIに使われる会計担当者ではなく、AIを利活用できる会計担当者を育成することが重要になる。そのためには、AIを利活用する際の“情報倫理”や“会計倫理”の教育も忘れてはならない。

7 おわりに

AI時代では、文系、理系という区分で教育を行うことの意義をもう一度問い直す必要がある。また、会計学だけを教えるのではなく、経営、組織、人事・給与、情報システムなど幅広い知識を身に付けさせる教育が求められている。筆者の経験から見ても、事務系社員が技術的な業務を担当したり、技術系社員が会計も含めた事務処理を担当したりすることが少なくない。つまり“文理両道”の人材が必要になっている。

学生が社会に出て活躍できる人材を教育するためには、このような幅広い視点から教育を行うことが重要であり、大学の教員も自分の専門だけではなく他の専門分野に関心を持ち、他の教員との連携を図ることが重要である。